

高次脳機能障害専門セミナー開催される。

長野県高次脳機能支援普及事業の一環として、平成 20 年 7 月 12 日(土)、松本市合同庁舎講堂にて「高次脳機能障害専門セミナー」が開催されました。



本セミナーは平成 16 年度に開始された「長野県高次脳機能障害支援事業(ゼロ予算事業)」から数えて 5 回目の開催であり、長野県社会部障害福祉課と中信地区支援拠点病院である当院が中心となって取組んでいるセミナーですが、昨年同様、社団法人日本損害保険協会による「リハビリテーション講習会に対する助成事業」の助成金を得て、「長野県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会」として開催され、高次脳機能障害に対する啓蒙活動としての着実な発展を続けています。

例年、県内広域から医師・看護師・PT・OT・ST・MSW・心理士などの病院関係職種や介護職員・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士のなどの地域福祉関係職員、ご当事者・ご家族などが参加されており、今年度も約 130 名余が参加されました。

本セミナーでは、長野県社会部障害福祉課 宮本主事から「長野県の高次脳機能障害支援事業の概要」の説明があり、長野県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会実行委員長でもある当院総合リハビリテーションセンター長 原寛美先生から「高次脳機能障害相談窓口・診察・支援の概要とその重要性」、



目白大学保健衛生学部作業療法学科教授であられる松葉正子先生から「高次脳機能障害者に対する評価と社会的支援」の 2 演題の講演を頂きました。

原医師からは、高次脳機能障害患に関わる最新の支援情報を踏まえ、急性期からの集中的な医学的リハビリや適切な診断により年金申請を行い、地域や就労支援つながる社会復帰までの支援が一貫して保障される体制の構築の重要性をご講演頂きました。



松葉教授からは、日常生活上に必要となる注意機能を評価する TEA(Test of Everyday Attention)からみた社会参加(就労など)の影響をはじめとし、TBI リハビリテーションセンター(東京都台東区)でのご経験などをふまえた地域・社会的支援の情報を数多くご教授頂きました。

高次脳機能障害に対する支援が社会的には拡充しつつある状況ですが、自らの地域で生活する高次脳機能障害者に対して十分な支援をまだまだ提供できていないことを痛感し、社会的支援には終わりがなく、日々の臨床で取り組むべき事を再確認する有意義なセミナーとなりました。